

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

事務局:きょうごく矯正歯科・小児歯科クリニック内
京極和彦
〒862-0963 熊本市南区出仲間
TEL 096-334-6055 FAX 096-334-6057
E-Mail: k.kyougoku@jcom.zag.ne.jp

平成 28 年度 (秋季)



熊本矯正歯科研究会総会・講演会 (H28. 7. 9 アークホテル熊本)

熊本矯正歯科研究会によせて



夏の暑さもやっと収まり、秋らしい景色も目にするようになってきましたが、会員の先生方におかれましてはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、ご承知のように「熊本矯正歯科研究会」も 10 周年の節目を迎えることになりました。今回の年末の講演会には、本会の発展のためにご尽力いただいた、初代会長の池上富雄先生、ならびに二代目会長の伊東隆三先生のお二人にご講演を頂きます。

池上先生は西日本歯科矯正学会時代からの脱却と創生において尽力されました。また伊東隆三先生はこの会を更に充実すべく、会員の増強や会則の検討など、会の発展に寄与されました。謹んで感謝の意を表します。

今後とも、矯正歯科治療を通して地域医療の充実に寄与できるよう、「熊本矯正歯科研究会」の会員一人ひとりが研鑽できる環境作りを目指したいと考えています。

平成 28 年度前期の主な活動

○ 第 1～6 回理事会・常任役員会

毎月一回のペースで執行部による理事会・常任役員会を行っております。2016 年 2 月 29 日に第 1 回、3 月 28 日に第 2 回、5 月 16 日に第 3 回、5 月 30 日に第 4 回、7 月 4 日に第 5 回、9 月 5 日に第 6 回理事会・常任役員会を開きました。

○ 平成 28 年度総会 (2016 年 7 月 9 日)

アークホテル熊本にて、平成 28 年度総会が開催され、12 名の先生（役員・理事除く）にご参加いただきました。委任状 48 名と合わせて計 60 名、総会員の 1/2 を超えていることから本会が成立。議長に若江秀俊先生、議事録署名人に徳永俊英先生・江藤寛文先生が選出され、新執行部挨拶および会務ご報告として総会が行われました。

1) 報告事項

- ・ 新理事・常任理事紹介
- ・ 今季は 5 回の理事会、常任理事会を行いました。
- ・ 現在の会員数は 89 名（平成 28 年度総会時）です。
- ・ 熊本市市歯会主催の「2016 歯の祭典」（6 月 5 日 下通り）に、本会より矯正歯科相談に 6 名が出務予定となっておりましたが、熊本地震のため中止となりました。
- ・ 本日の時点で 88 名中 63 名の先生から会費納入を確認しております。
- ・ ホームページをリニューアル致しました。今回から新たな試みとして、本会ホームページから会員の先生方のホームページをリンクしております。ご希望の先生は、アドレスをご教示くださいませ。
- ・ 4 月に発生した熊本地震の影響により、第 12 回九州矯正歯科学会熊本大会が第 15 回と入れ替えて開催されることになった経緯について詳細に報告。

2) 審議事項

- ・ 平成 27 年度決算の承認を求める件・・・平成 27 年度決算報告に対して、賛成多数で承認
- ・ 平成 28 年度予算案の承認を求める件・・・平成 28 年度予算案に対して、賛成多数で承認
- ・ 熊本矯正歯科研究会 10 周年記念講演会開催の件・・・賛成多数で承認

3) 協議事項

会則改正について

評議員会の存続や、本会が九州矯正歯科学会熊本支部を兼ねる件について、正式には協力団体であると考えられること。会費未納での退会規定等について、理事会で検討し、いずれ総会に議案を提出する予定です。

以上、総会でのご報告、審議事項、協議事項です。



総会に引き続き、会員発表と講演会が行われました。

会員発表 「矯正歯科臨床 ～20（15+5）年目に思うこと～」

医) デンタル・アート 犬童矯正歯科 久永 豊 先生



資料採得の重要性、アポイント管理の正確性の大切さ、治療テクニック等について発表されました。会員の皆さま、真剣に耳を傾けておられました！！

特別講演 「失敗を失敗で終わらせないために」

(医) 歯科一番町・SAS 矯正歯科センター主任 コネチカット大学客員教授 菅原 準二 先生



他院にて施術された矯正患者の再治療、成長期の患者におけるマルチブラケット開始のタイミングなどについてご講演いただきました。後戻り患者の治療期間は1年以内とすること。自分で支払いができない高額な矯正治療を、子供3人がプレゼントしてくれた感動的なお話。口腔成育と包括治療は車の両輪みたいなもので、失敗から学ぶべきことが沢山あること。矯正歯科治療については、その質の許容水準が高く、(許容)範囲が狭いことから、臨床医は「確実さ」という質を上げていかなければならないなど、大変貴重なご講話をいただきました。講話の冒頭で震度3の地震があったのですが、流石は東北で震災を経験された菅原先生!!まったく動じることなく、「今は、、、震度3ですね。」と震度までの中され、会場を沸かされました!大変お忙しい中、誠にありがとうございました。

懇親会スナップ



今後の予定とお知らせ

平成28年11月26日(土)、熊本県民交流会館パレアにて熊本矯正歯科研究会10周年記念講演会と祝賀会を行います。本会10周年を記念しまして、会の発展に多大なるご貢献をいただきました、初代会長の池上富雄先生、2代目会長の伊東隆三先生に御講話を賜ります。祝賀会も日航ホテルにて20時より予定しておりますので、スタッフお誘い合わせの上ぜひご参加くださいませ。

10周年記念講演会・祝賀会

18:00 ~ 19:30 講演会 熊本県民交流会館パレア (会費: 無料)

20:00 ~ 22:00 祝賀会 日航ホテル 7F ガーデンバンケット (会費: 8,000円)

講演会抄録

『熊本矯正歯科研究会の草創期についてと最近の臨床から』

医療法人 熊本歯列矯正センター 池上矯正歯科クリニック 池上 富雄 先生

熊本矯正歯科研究会設立 10 周年おめでとうございます。この度は 10 周年を記念して現在までの会長経験者に話をしたいと思っております。このご依頼でしたので本研究会の草創期の事などについて少し述べさせていただきます。しかし、それだけでは時間が持ちませんし、聞いている方も退屈されると思いますので後半は最近の臨床から、トピックを選んで少しお話しをさせていただきます。

小生が熊本市で矯正歯科専門で開業したのは 1984 年(昭和 59 年)ですが熊本における矯正歯科の勉強会にはそれまでに長い歴史があったようです。しかし、熊本県全体としての研究会活動は現在の熊本矯正歯科研究会の前身である西日本歯科矯正学会熊本支部が、当時熊本県歯科医師会長であられた故宇治寿康先生により、1988 年(昭和 63 年)に県歯会館(当時)において行われた設立総会によって発足したことに端を発します。その後、この支部活動は 2006 年(平成 18 年)まで継続しましたが上部組織である西日本歯科矯正学会自体が日矯の法人化問題により紛糾し、新たに大学を中心とした九州矯正歯科学会が設立され、ほとんどの会員がそちらに移動したため、いずれの学会の下部組織でもない熊本独自の新たな研究会を設立することになり暮れも押し迫った 2006 年(平成 18 年)11 月 25 日にホテルニューオータニで開かれた設立総会において現在の熊本矯正歯科研究会が発足し、新会長として小生が選出されました。

以上が熊本矯正歯科研究会創設時のいきさつですが、後半は少し趣を変えて矯正臨床の話をしていただきたいと思います。実は本年(2016 年)5 月中旬に福岡市において「失敗例から学ぶ矯正」というテーマで話をする機会があり、その時に現在までに経験した私自身および他院で行った矯正治療の問題(失敗)症例についてまとめる機会がありましたのでこの機会を利用して熊本で矯正治療を行っていただける先生方にも何らかの参考になるのではないかと思います。矯正治療は長い時間をかけて行う治療であり、その結果も長い時間をかけて評価が行われるというところにその治療の特殊性があります。95%の治療がうまくいったとしてもたった 5%でも問題症例が発生すればその治療を行った医院およびドクターにとっては大きなイメージダウンとなります。そのようなダメージを避けるために今回の講演が会員各位の日々の矯正臨床にとって何らかの参考になれば幸いです。

『熊本矯正歯科研究会 10 周年を迎えて』

医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院 病院長 伊東 隆三 先生

熊本矯正歯科研究会設立 10 周年まことにおめでとうございます。今後ますますの発展を祈念しております。

歴史のある西日本歯科矯正学会熊本支部を発祥とし、平成 18 年 11 月 25 日に熊本矯正歯科研究会が初代池上富雄会長のもとで設立されました。その後平成 22 年 4 月 1 日から 2 代目会長として伊東隆三が就任し 3 期 6 年間務めてまいりました。設立以来、本研究会が熊本県の矯正歯科界の発展に寄与してきましたことは言うまでもなく、現在 98 名の会員を擁するまでになっております。

これからの歯科医療はチーム医療、連携医療が重要となってきます。GP の先生方の診療所には不正咬合を持った患者が多くみられ、その中には歯並びやアゴの歪みなど審美的・機能的な悩みを持ち、矯正歯科治療に興味を示す患者もたくさんいます。また矯正治療中の患者には歯の治療、補綴やインプラント治療を行わなければならない患者も多くみられます。そこで、矯正歯科医と GP の先生方との連携治療により患者中心の良質な歯科医療が行えるようになります。

会長就任時に申しあげました①熊本矯正歯科研究会会則改正や会長および監事選出規定の制定、②本研究会の組織の再構成と活性化、③GP の先生方との連携強化、④不正咬合の予防や矯正歯科治療の必要性に対する啓発と講演活動、⑤ホームページの開設、⑥ニュースレターの発刊などについては皆様のご支援のお陰でほぼ達成できたものと考えております。しかしながら、顎の狭小化が指摘されている中、幼稚園(保育園)児や小・中学校生徒を対象に矯正歯科学的な歯科検診の必要性について啓発活動を進めてきましたが、まだ十分とは言えません。虫歯は会員の先生方もお気づきのよう先生方、保護者、教育・行政関係者の方々の努力で激減しております。しかし不正咬合者の割合は激増しており、不正咬合の予防や矯正治療の必要性を啓発していく上でも、学校健診で学校歯科医とともに矯正歯科医が矯正歯科学的検診を連携して行っていく必要があります。

本講演では、6 年を振り返るとともに学校健診における不正咬合の実態と、これまでの念願でありました保育園児の不正咬合と食育、カムカム運動等について報告したいと考えています。

(編集; 広報担当理事 上村裕希)

熊矯ホームページは、 <http://kumakyouseiken.com/>

熊本矯正歯科研究会ホームページをリニューアル致しました。ニュースレターはホームページからもご覧できます。自院のホームページをリンクご希望の先生がおられましたら、事務局までご連絡くださいませ。